

栃木「正論」友の会 山谷えり子議員が講演

「拉致解決 最優先で」

栃木

宇都宮支局
〒320-0027
宇都宮市塙田
1-3-9
☎ 028-621-3611
FAX 028-650-1559
utsunomiya@
sankei.co.jp
広告 028-622-5591
購読申し込み
0120-70-3034
配達・集金
0120-34-4646
紙面・記事
03-3275-8864

Web
http://sankei.jp.msn.
com/region/region.htm

あすのこよみ

(16日)
旧5月19日
《大安》



月齢	18.3
日出	4:22
日入	19:01
月出	21:33
月入	7:34
満潮	4:58
	19:18
干潮	12:12
中潮	(大洗)

栃木から日本のあるべき未来を考える「栃木『正論』友の会」の第3回講演会が14日、宇都宮市陽西町の護国会館で開かれた。参院議員の山谷えり子氏が「日本よ永遠なれ」のテーマで、解決に向けての機運が高まる拉致問題や、行使容認についての議論が進む集団的自衛権など、日本が抱える諸問題について詳しく解説した。

講演会には、産経新聞社の「正論」路線に賛同する読者ら約180人が参加。「北朝鮮に拉致された日本人を救出するために行動する議員連盟(拉致議連)」の事務局長を務める山谷氏はまず、北朝鮮の拉致問題について取り上げた。



講演する山谷えり子参院議員

北朝鮮が5月、拉致被害者の再調査を行うと表明した背景については「経済の行き詰まりに加えて、今年3月に拉致問題を非難する国連の報告書が出されるなど、国際的な圧力の強まりがある」と分析。「国家が国家としてあるために、政府は最優先で取り組むべきだ」と訴えた。

続いて、第2次安倍内閣が力を入れる教育再生や外交・安全保障問題について解説。アジア・アフリカ諸国に対し、ODA(政府開発援助)を通じた物的・人的支援を強化していることに触れて「規律正しさなどの日本が誇る文化をパッケージで輸出し、日本への好感度を上げるのが目的。ODAを戦略的に使うことは必要」と理解を求めた。

与党内で大詰めを迎えている集団的自衛権行使の憲法解釈見直しについては、「隙間を埋めながら日本国民を守るようにしよう」というのが一連の議論で行われていることと説明。

焦点となっている「グリーンゾーン」とされる事例が、離島における不法行為への対処▽公海上で自衛隊

が遭遇する不法行為への対処▽弾道ミサイル発射警戒時の米艦防護―だとした上で、「秋の臨時国会や来年の通常国会で、こうした問

題を放置させないための法整備を進めていく」と話した。

講演後の質疑応答では、「拉致問題はどれくらいで解決すると思うか」「(韓国、中国が仕掛ける)従軍慰安婦、南京大虐殺などの情報戦にはどう対処すればいいのか」などの質問が相次いだ。

「何とか進展を」

講演会には、北朝鮮による拉致の可能性が否定できない「特定失踪者」の一人、小山市出身の安西正博さん(27)―の父、茂雄さん(82)も駆け付けた。

正博さんは平成8年4月、名古屋市内の勤務先の社員寮を出たまま行方が分からなくなった。茂雄さんは手がかりを求めて日本中を捜し回り、約10年前に北朝鮮による拉致の可能性が

特定失踪者、安西正博さんの父

あることが判明。以来、大病を患いながらも特定失踪者問題に関する集會に出席するなど、活動を続けている。

県警が公表している県内にゆかりのある特定失踪者は、正博さんを含めて4人。県警は他に非公表の数人を把握している。

北朝鮮が全面的な再調査を表明し、進展が期待される拉致問題。茂雄さんは「自分も含めて(特定失踪者の)家族は高齢になっている。予断は許さないが、何とか進展してほしい」と話した。



講演会に参加した安西茂雄さん